

衰と盛

— 受け継ぐ古代のコミュニティ —

コミュニティの境は時代を越ると共に変化する。

現代の一般的とされる建築は建物の真の上でのコミュニティが展開されている。しかし、古代でのコミュニティの境は地面の上であった。縄文や弥生時代では、地面を覆う、その上に建築仕舞を設けていた。

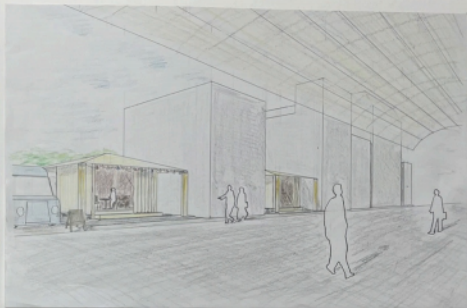
床の上でのコミュニティは原則である反面、建築的問題がコミュニティ形成にはついて回る。しかし、大昔に定かたらない位置は、概念的かつ組み立てが簡単である。だから、必要になれば建てる、不必要であれば解体し、また必要になれば建てる。という現代の一般的に建築には不可能な短期での組み立て、解体が可能である。

本建築では断片的な建築を一般化し、多数配置することで1つの発想ともいえるコミュニティを形成する。

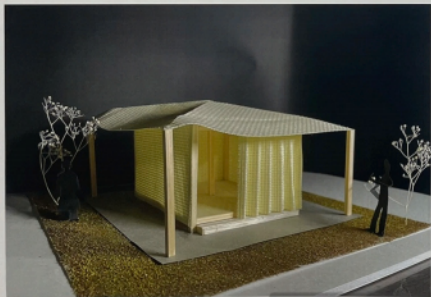
それぞれの建築に多様な用途を持たせることがその土地の活性化を助けるだろう。しかし、あくまでも1つ1つの建物はその用途の専断であり、それらをつらねるのは建築家である。

建物の真の上でコミュニティを展開するのではなく、その上層が入りこむことで、

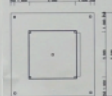
FL上のものがより、「GL上のものがより」へ。



・敷地や用途に応じて2パターンサイズのユニットを展開



① 外壁面など、小規模な用途の場合



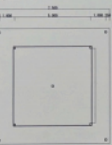
平面図 1/100



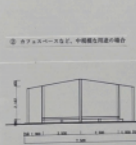
断面図 1/100



立面図 1/100



平面図 1/100

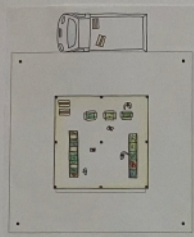


断面図 1/100

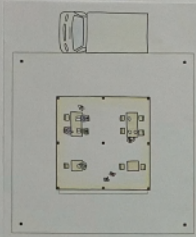


立面図 1/100

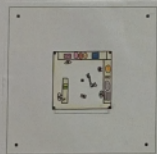
② ホールスペースなど、中規模な用途の場合



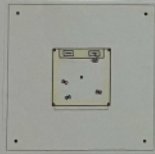
軽トラック併設型野菜市 1/100



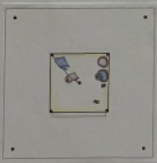
キッチンカー併設型カフェ 1/100



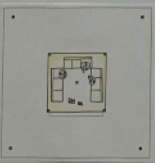
出店 1/100



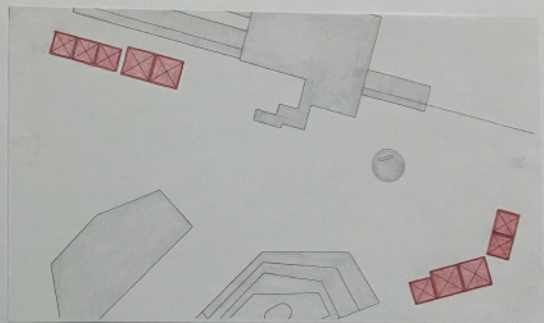
投売所 1/100



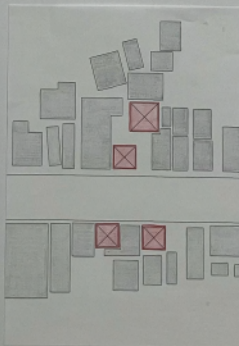
ワークショップ 1/100



地域の休息所 1/100



駅舎の場合 配置図 1/600



商店街の場合 配置図 1/600



住宅街の場合 配置図 1/600